

## 令和6年度 校内研究について

学校教育目標 自他尊重

### 1. 研究主題

「主体的に学びに向かう児童の育成 ～子どもの声でつくる授業をめざして～」

(3か年3年次 全教科)

### 2. めざす子どもの姿

主体的に学びに向かう児童

- 見通しを立てて学習し、自己の学びを振り返る児童
- あきらめずに粘り強く取り組み、自分の考えを伝える児童

### 3. 研究目的

主体的に学びに向かう児童の育成に向けて、各教科等の授業の中でどのような手立てを講じることが有効なのかを検討し、授業実践を積み重ね、指導や支援の在り方を探る。

### 4. 研究内容

	①児童が見通しを立てて学習し、 自己の学びを振り返るための手立て	②児童が粘り強く取り組み、 自分の考えを伝えるための手立て
検討する 観点	<b>タブレット端末の効果的な活用</b>	
	・目的や方法を共有するやり取りの工夫 ・既習事項を生かした学習展開 ・ふりかえりの場面や仕方の工夫	・意欲的に取り組める課題設定 ・考えの可視化 ・伝える場のコーディネート(学習形態の工夫含む)

○授業では重点を置く観点を1つ程度決めて、手立てを検討する。その際、発達段階や教科の特性も踏まえ、児童のタブレット端末活用の可能性を積極的に探っていく。

○担任、専科は年1回以上、校内研究に関する研究授業(審議・授業・協議)を行う。

○研究授業の際には授業づくりシートを作成する。

○ファイルに授業づくりシートや資料、その際の記録を各自綴じていくことで、研究実践集とする。

### 5. 研究の方向性

○研究授業に限らず、児童の「主体的に学びに向かう姿」をめざし日々の授業改善に取り組んでいく。昨年度の成果と課題を踏まえ、学級の実態に応じて、様々な方法を試みながら、よりよい指導、支援の仕方を探っていきたい。その中で講じた手立てによって、児童がよりよい姿を見せる時があると思われる。その積み重ねを大事にしたい。またそれらを共有する機会(研究授業や職員研修)をもつことで、学校全体で児童の「主体的に学びに向かう姿」の実現をめざしていく。

### 6. 主な予定

時期	担当	校内研究・訪問指導 等
4月	全員	研究構想についての検討・共通理解
10月29日	伊藤	授業改善 訪問指導1(全体協議)
9月19日	原	授業改善 訪問指導2(全体協議)
2学期後半	長松	同和問題学習研究授業(全体協議)
2月下旬	全員	研究のふりかえり・次年度へ向けて

### 7. 研究推進グループ

<b>A</b>	○田中 伊藤 羽柴 上部 水野 校長
<b>B</b>	○原 伊津 宇津 ○寺森 西村 教頭
<b>C</b>	山根 長松 ○青山 ○藤川 大野

○は研究部

指導案審議・研究授業参観・研究協議はグループのメンバーを中心に行う。